

2023 年度ゴンドワナ地質環境研究所（GIGE）事業報告

2023 年度（2023 年 1 月～12 月）の [ゴンドワナ地質環境研究所（GIGE）](#) 本部実施事業の概要は以下の通りである。別に [月別事業記録](#) をリンクで示した。決算報告は 3 月確定申告後に GIGE ホームページで公開する。

＜主な事業＞

1. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム及び関連事業

- (1) 第 11 回実習ツアー（SHET-11）の準備（1 月～2 月）
- (2) [第 11 回学生のヒマラヤ野外実習ツアーの実施](#)（3 月）

実習ツアー（SHET-11）は 2023 年 3 月上旬に 16 日間、例年通りのプログラムで実施された。

ツアー参加者は 15 人で、日本学生は 6 大学から 11 人、ネパール大学生 2 人と中国大学生 1 人（IAGR が参加費補助）に加えて山岳写真家 1 人で、会長とトリブバン大学の M. Paudel 淄教授がリーダー兼野外実習講師として参加した。日本出発は 3 月 3 日、コロナ問題のために例年利用する中国系のフライトが無く、全員がマレーシア航空を利用しカトマンズ空港に同日深夜に到着した。翌 4 日午前中は実習ツアー予習セミナーで会長とネパール科学技術アカデミー B.N. Upreti 教授の講義があった。午後はトリブバン大学生ら大勢に案内され、2 班に分かれてカトマンズ市西部の世界遺産、スワヤンブナート寺院見学を行った。夜はトリブバン大学教員 4 人の参加を得て大学付近のネパールレストランで懇親夕食会が行われた。

翌 5 日から 10 日間、野外実習ツアーコースは例年と同じカトマンズ～ポカラ～ムクチナート～ポカラ～ルンビニ～カトマンズを 10 日間、ハイウェイも山岳地帯も同じ中型バス 1 台で走破した。ツアーペリオドはおおむね良好な天候で、各所で見事なヒマラヤの景観を楽しみつつ、例年同様の実習を予定通り実施することができた。

SHET-11 実施経費総額は 3,152,000 円であった。財源は参加者による参加費 2867782 円と 1 組織と 1 個人による寄付金 150,000 円及びクラウドファンディング 134,891 で、学生 1 人当たりの実施経費は 238,331 円、寄付金等による学生 1 人当たりの支援金は 22,730 円で、結局学生 1 人当たりの参加費は 215,601 円であった。



SHET-11 チーム、トランスヒマラヤ特有の乾燥の山々と、遙かのダウラギリをバックに、カグベニ東のテラスで（3 月）

(3) ネパール政府によるネパール国内野外調査に対する許可システムが昨年より新たに導入された。SHET-11 では準備期間から実習ツアー実施期間にかけてトリブバン大学側と連絡・協議を重ねて調査の許可申請書、地質標本国外持ち出し許可申請書などを作成し、トリブバン大学教員よりネパール地質鉱産局に提出し、許可証の交付を受けた。このため、例年問題であった空港セキュリティでの岩石標本持出しへの厳しい監査や注文は皆無でスムーズに通過できた。

(4) SHET-11 の報告 (3月～5月) : 実施報告（概略） は GIGE ホームページ (3月) のほか、日本地質学会 NEWS (5月) で公開された。総合報告書 「ヒマラヤ造山帶大横断 2023」 (会長編集、フィールドサイエンス出版発行 PDF 版 191 頁) は 5月に発行された。

(5) SHET-12 の情宣・参加者募集とツアー実施準備 (5月～12月) :

インターネット、参加者らの SNS、日本地質学会 NEWS、地団研そくほうなどによる SHET-12 の情宣が行われた。また、国内 72 地学関係教室対象に 「ヒマラヤ造山帶大横断 2023」 (リンク)、SHET-12 参加者募集ビラ 及び SHET-12 実施プログラム を送付し、参加者募集の情宣をお願いした。参加希望者は 5月からあり、12 月中旬には国内 10 大学からの学生 31 人、橋本市民ら 3 人の合計 34 人の参加登録者があり、12 月 16 日には参加登録を締め切った。ネパール側との連絡と情報交換・参加登録者への諸情報・注意等の送付などが 8 月から 12 月にかけて行われた。

(6) SHET クラウドファンディング

2022 年 3 月は航空運賃やネパール国内旅費の高騰があったが、その傾向はその後も続いており、学生参加費を 20 万円以下にするには外部資金導入が必須と判断されている。「学生にヒマラヤで学ぶ機会を！」クラウドファンディング (<http://www.gondwanainst.org/cf>) の成果が期待されている。

2. 論文・書籍の執筆・編集・投稿・発行

- ① ネパールランタン谷の地学と自然災害ガイドブック (英文) のデータ整理と執筆作業 (1 月～12 月に随時)。
- ② 学生のヒマラヤ野外実習ツアー10 年間 (吉田勝著、極地 59 卷 1) の発行。
- ③ 「ヒマラヤ造山帶大横断 2023」 (吉田勝編、231 頁、ISBN9784938925-475) の編集・発行 (3 月～5 月)。
- ④ Geology and Natural Hazards along Kaligandaki and Highways Kathmandu-Pokhara-Bairawa-Mugling – Guidebook for the Student Himalayan Field Exercise Tour, 2nd Edition (M. Yoshida, P.D. Ulak, B.N.Upreti, eds., 159 pages, Field Science Publishers, ISBN 9784938925482) の発行 (8 月)。
- ⑤ Snow patches and glaciers in Japan – Commentary on the definition and classification of glaciers (M. Yoshida, Geology, Earth and Marine Sciences 5-6, 1-9) の発表 (9 月)。



左上の小沢からの土砂流が広がり、白馬分室の建物まで及んでいる。K: 木漏れ陽荘

<その他の事業・活動など>

★北大や大阪市大関連団体の連絡誌等 3 誌に会長が学生ヒマラヤ実習関連のレポートを発

表した（3月～12月）。

★会長による既発表論文数編のデジタル化やPDFファイル作成とResearch GateとGIGEホームページへのアップロード、デジタル化（1月～12月随時）。

★長野県のGIGE白馬分室のある木漏れ陽荘が土砂災害（12月）を受けて2024年前半数か月（？）は使用できることになった。

補遺

会長の最新の著書「6億年前、地球上に巨大大陸があった—ゴンドワナランドの集合・分裂とアジア大陸の成長」

会長は1968年に東ゴンドワナランドの中心である南極大陸の野外調査以来、ゴンドワナランドの地質研究と同地域の地学教育・研究環境の向上に向けて情熱を傾けて来た。本書はその流れから生まれた会長のライフワークと言えます。本書の目次は以下の通り。



- I. 大陸漂移説とプレートテクトニクス
- II. ゴンドワナランドとパンゲア実在の証拠
- III. 大陸移動の証拠
- IV. ゴンドワナランドの誕生
- V. パンゲアの誕生・分裂とアジア大陸の成長

巻頭には本書全体の流れをまとめた8頁のカラー図表が、本文ページには読者の理解を深める42の脚注とコラム21項目が、巻末には読者の理解を助ける参考文献集、用語解説と語彙集が付されています。

A5版 156頁+カラー図表8頁

発行：東信堂（東京都文京区）

販価：2200円（税込み）

販売：日本各地の大書店とウェブ（Amazon、楽天ほか）

なお、著者に直接（下記）注文すると著者割引（送料込み2000円）があります。

2023年12月25日

吉田 勝

ゴンドワナ地質環境研究所（GIGE）会長

<http://www.gondwanainst.org/>

648-0091 和歌山県橋本市柱本147-2

E-mail: gondwana@oregano.ocn.ne.jp

Tel & Fax: 0736-36-7789 Cellphone & SMS: 080-6112-7789

取引銀行：三菱UFJ銀行阿部野橋支店

（普通預金口座）口座番号 6601226

口座名義：ゴンドワナ地質環境研究所